

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 6月 8日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | (※評価機関で記入) 4677500110 |
| 法人名 | 社会福祉法人 恵仁会 |
| 事業所名 | グループホーム あいら |
| 所在地 | 鹿屋市吾平町上名5324番地 (電 話) 0994-58-5539 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉21かごしま |
| 所在地 | 鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F |
| 訪問調査日 | 平成21年6月8日 |

【情報提供票より】(21年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 4 月 1 日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 16 人 常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9.5 人 |

(2)建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 木造 | | |
| | 1 階建ての | 1 階 ~ | 1 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 18,900 円 | その他の経費(月額) | 実費 |
| 敷 金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 950 円 |

(4)利用者の概要(4月 1日現在)

| | | | |
|-------|------|--------|--------------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 1 名 | 女性 17 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 5 名 |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 2 名 |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 平均 | 84 歳 | 最低 | 75 歳 最高 95 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人 青仁会 池田病院、医療法人 誠心会 入佐内科 |
|---------|-----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな丘陵地に建つホームである。近くに公園や物産館があり、太陽熱や雨水を利用した建物は明るく、広々とゆったりしている。利用者は和気あいあいとした雰囲気、ホームの中はのどかにゆっくりと時間が流れている。管理者と職員は受診記録を利用して主治医との情報交換を確実にし、さらに、訪問看護師から得られる医療の知識を介護にいかし、その人らしい生活をできるだけ長く支えようとする介護を検討している。終末期も家族の気持ちを尋ね、話し合いながらの介護を続けた事例がある。地域の駐在所や消防団との連携を取り、自主的な避難訓練を毎

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | <p>昨年の外部評価の結果は特に取り組み事項の指摘はなく、申し送りの際に職員に伝達し、家族には結果を配布し報告している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員が項目ごとに分担して考え、話し合った結果をまとめた。職員が分担して取り組むことにより、外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、町内会代表、地区分館長、老人会、市民生活課、地域包括支援センター職員などを招いて、2か月ごとに開催され、地域や家族からの要望や意見が出て有意義な会になっている。今後は運営推進会議で外部評価結果や自己評価の説明がどのように行われたのかなどの議事録への記載が望まれる。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明示するとともに、年2回の家族会を利用して意見や要望を遠慮なく出してもらえるように声をかけている。また、玄関には意見箱も設置し、出された要望は申し送りノートで共有し、結果を家族に報告している。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敬老会や祭りの見学に出かけたり、小学校の子供会や幼稚園との交流をしながら地域との交流を図っている。また、中学校の職場体験受け入れを行い地域に貢献したり、自治会の清掃日にお茶を出すなど地域の一員として活動に参加できる方法を模索している。</p> |

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「黒はね地区で春夏秋冬を感じながら」と地域の中で、喜怒哀楽を共有しながらともに暮らしていく内容の理念がある。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 玄関や事務室にわかりやすく掲示するとともに毎月のミーティングで確認している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 敬老会や祭りの見学に出かけたり、小学校の子供会や幼稚園との交流をしながら地域との交流を図っている。また、中学校の職場体験受け入れを行い地域に貢献したり、自治会の清掃日にお茶を出すなど地域の一員として活動に参加できる方法を模索している。 | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 昨年の外部評価の結果は申し送りの際に職員に伝達し、家族には結果を配布し報告した。自己評価は職員が項目ごとに分担して考え、話し合った結果をまとめた。職員が分担して取り組むことにより、外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月ごとに開催している。利用者、家族、町内会代表、地区分館長、老人会、市民生活課、包括支援センター職員などを招いて、地域や家族からの要望や意見が出され有意義な会になっている。しかし、運営推進会議で外部評価結果や自己評価の説明がどのように行われたのか、議事録などによる確認ができない。 | ○ | 年1回の評価の効果をより高めるために、運営推進会議で自己評価の説明をしたり、外部評価の結果を公表することにより取り組みや改善経過のモニター役として活用することが望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 法人の「たより」を届けたり、事務手続きなどのために市担当窓口や関係窓口に立ち寄り、情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 連絡帳を作成し面会や電話など機会をとらえて状況を報告したり、あいら便りを年2回作成し配布している。金銭管理については面会時に説明し、確認の押印をもらうか、遠方の家族には郵送し報告している。職員の異動は家族会で説明し紹介している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明示するとともに、年2回の家族会を利用して意見や要望を遠慮なく出してもらえるように声をかけている。また、玄関には意見箱も設置し、出された要望は申し送りノートで共有し、結果を家族に報告している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 運営者及び管理者は職員の異動を必要最小限にとどめるように努力をしている。また、やむを得ず異動となる際には利用者に紹介をし、引き継ぎを十分に行うなどダメージが少なくなるように配慮している。 | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 2カ月に1回法人内でテーマを決め、年間計画を作成した勉強会を行っている。その他に行政や社会福祉協議会の研修などにも参加し、受講料などは事業所が負担するなど職員の資質の向上に努めている。介護福祉士資格取得の勧奨を行っているが、習熟度に応じた具体的な研修方針は確認できない。 | ○ | 立場や経験などに応じて段階的に力をつけていけるような研修方針を明文化することが望まれる。限られた職員体制の中で、実務に支障をきたさないように研修機会を確保するためにも、職員と十分に話し合いながら年間計画の中で位置付けていく運営面での工夫が望まれる。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホーム協議会に加入し、発表会を兼ねて利用者を交え他のグループホームとの交流を図ったり、研修会に参加したりしてサービスの向上に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 昨年入居された利用者は病院からの転居だったため、入院中に面会し不安の解消や早期からの関係作りに配慮した。また、今までの暮らしで馴染んだものを持ってきてもらう、家族や今まで係わりのある方の訪問をお願いするなどの工夫を行っている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | お茶を飲んだり、料理の下ごしらえをしたり、共に過ごす時間の中で、知恵を教わったり、ねぎらいの言葉を掛けてもらいながら支えあう関係を築いている。体を動かすレクリエーションや音楽活動も頻繁に行われており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用開始前から本人や家族、その他関係者から利用者がどのように暮らしたいかを聞き、楽しみの持てる介護計画をめざしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などで職員間で共有している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 安全と自立のバランスを念頭においた計画を作成するため、主治医や訪問看護師の助言を取り入れ、計画作成担当者を中心に本人や家族や職員と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、利用者・家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 一人ひとりの連絡帳を作成し家族の意見、要望を取り入れるとともに、職員の気づきも記入している。状態の変化が生じた場合はそのつど見直しを行い、大きな変化が見られなくても、毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、目標期間の終了時には担当者会議を開催し介護計画を見直し、作成している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 訪問看護師との連携により、長期入院を回避している。また、入院中の利用者の元へも頻繁に出向き、安心した療養生活が送れるように支援している。その他、利用者の通院介助や外出・外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族の宿泊も可能である。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的な往診、通院介助の対応がなされ、利用者及び家族の希望を大切にし、その上で協力医療機関の支援をもらっている。また、一人ひとりの受診記録を作成し、医師の指示や与薬の変更など分かりやすく記載され、リスクの回避につながっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、重度化した場合は、家族、かかりつけ医、訪問看護師と相談し、状況の変化に伴った合意事項を記録し、職員間の共有も図っている。 | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 玄関、事務室に個人情報の保護方針についての掲示があり、記録物は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては、ミーティングで話し合いながら個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣などの選択を支援しその人らしい暮らしができるように環境を整えているようすがうかがえる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の嗜好を聞きながら、旬の食材を取り入れ、食事の下ごしらえや配膳をしてもらったり、食前の嚥下体操を楽しみごとの一つとして取り入れることで、食への期待や和やかな雰囲気を作っている。職員も同じテーブルで食事し会話を楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日入浴でき、利用者の希望を聞きながら、利用者同士の入浴も行い、楽しみの持てる入浴が行われている。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけを工夫し、体調が悪く入浴できない方にも部分浴やシャワーを利用しながら気分転換や保清に努めている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 畑仕事・食事の支度、漬物づくりなど生活歴から得意なことを見つけ、職員が教わりながら豊かな暮らしを支援している。また、包丁ときなど男性も力を発揮できる場面を見出したり、家族の協力を得て自身でお金を所持し使うことができるような支援を行ったりと一人ひとりが能力に応じて張り合いのある暮らしを送れるように支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 買い物はほとんどの利用者が楽しみ、天気の良い日は散歩をするなど日常的に屋外に出るほか、地域の行事参加や墓参りなども支援している。歩行が難しい利用者も屋外に椅子を置き、戸外で過ごしたり、出かける際には必ず声をかけ、できるだけ外出の機会を作っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は自由に玄関から外出できる。外出されるときには職員がさりげなくついて出たり、見守りを行っている。また、家族などの了解を得て駐在所、消防団へ情報提供を行い、連携をとり安全の確保にも努めている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署と夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、地元の消防団員も連絡網に含め緊急時の協力をお願いしている。その他に毎月自主訓練を行うなど、緊急時に備え訓練を繰り返している。また、懐中電灯やヘルメットなどの非常時の備品や飲料水等も備えている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日1500キロカロリー程度の食事提供と飲水量1500mlを目安にしている。毎月の体重変動や食事の量や水分摂取量は個人別に記録され、排泄も参考にしながら健康状態が把握されている。食前に歌を歌ったり、嚥下体操を行い楽しくおいしく食事が取れるように、また、嚥下に支障のある利用者には食事形態にも工夫している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間には季節を感じる花や絵が飾られ、ところどころに和室やソファなどホッとできるコーナーがある。食堂は日差しが差し込み明るく、台所の料理のようすが感じられ五感を刺激している。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や仏壇、思い出の写真をはじめ、テレビや趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。また家族とも相談しながら部屋作りをしている。 | | |